

【平成29年度】9月～11月

■平成29年9月20日（水） 1年生メンバー5名参加。

2学期の授業も放課後の部活動も本格化する中、今日も時間をつくって5名のメンバーが参加しました。今日のテーマは「カナダの学校」。マリ先生からカナダの教育制度を簡単に説明していただきました。



大学進学へのコースとしては、日本と大体同じですが、カナダの場合、州政府によって管轄されていて、各州の教育省が、日本の文部科学省のように、それぞれの地域的な特色や文化を生かしてカリキュラムを組むのだそうです。また、カナダの義務教育は、6歳ないし7歳から15歳ないし16歳までとのことでした。広大な国土を有するカナダならではの面白さもあることでしょう。

また後半は、カナダの高校生にも人気の音楽をいくつかピックアップして、紹介していただきました。メンバーの中には音楽好きの生徒もいて、聞き覚えのある曲が流れる度に、質問をしていました。

北村莉々果さん（2年生メンバー）、アメリカ・ミシガン州を語る

また、この日の活動の最後に、8月30日（水）～9月18日（月）までの間、滋賀県高校生海外相互派遣事業（県教委事業）に参加し、米ミシガン州で研修を受けてきた2年生メンバーの北村莉々果さんが、現地での研修内容を簡単に報告してくれました。



北村さんは、7月に交換留学で本校で学んだ 그레이シーさんの通うオックスフォード高校に通学。約2000人の生徒を有する高校で、広大な敷地に建っていたとのこと。全体研修では、滋賀県から参加した他のメンバーと、ミシガン州議会議事堂、デトロイト美術館、シダーポイント遊園地などを訪れたそうです。

高校の様子を聞いてみると、

「日本とは違い、アメリカは授業と授業の間の休み時間に教室を移動し、授業担当教員の部屋に移動する必要がある、廊下が混雑していて大変でした。朝は教室にあるアメリカ国旗の方に向いて起立し、胸に手を当てて宣誓をしてスタート、オンラインの授業もあり、一人一台のパソコンが貸与されていました。昼休みは日本と比べて短く感じました。カフェテリアでは、サンドイッチ、日替わりランチ、ピザ、ハンバーガー、サラダ、ポテトなどを食べていました。日本語や日本の文化を紹介するのがとても楽しかったです。」とのことでした。

また、学校以外の感想を聞くと、

「ホストファミリーも含め、周囲の方々がすごく優しかったので、最初は英語でうまく言いたいことを伝えられなかったり、聞き取れなかったりしたけれど、後半はどんどん積極的に話せるようになりました。とても緊張していたけれど、店で自分ひとりで注文できて、スターバックスコーヒーなどのオプション（クリームなど）もつけることができ、自分の望む商品が出てきたときはとても嬉しかったです。店に入ると必ず“How are you?”と訊かれるので、最初はとてもびっくりして何も反応できませんでしたが、徐々に慣れてきて、“Good! Thank you and you?”と自然と聞き返せるようにもなりました。」と元気に語ってくれました。

本当に貴重な経験になったことと思います。滋賀県とミシガン州は、来年、姉妹友好交流50周年を迎え、様々なイベントが実施、準備されています。友好親善としての貢献はもとより、これからも、心をグローバルにして、英語学習はじめ、幅広く見聞を広げてほしいと思います。

■平成29年9月27日（水） 1年生メンバー2名、2年生メンバー4名参加。

今日のハセック活動では、テーマは「ゲーム」となっていて、マリ先生がゲームを紹介してくださいました。UNO（ウノ）です。実際、ほんの少し知っている

生徒もいたのですが、日本でよく見られるトランプ遊びとはやや異なり、ルールを覚えるのがたいへんでした。

逆に、メンバーからは「七並べ」や「ババ抜き」を紹介。トランプ遊びを英語で説明するのに、かなり苦闘していたようです。



また、公式活動終了後、英語スピーチコンテスト用の原稿作成もおこないました。ハセックメンバーの2名が、2学期に行われる英語スピーチコンテストに出場予定です。これから応募するメンバーも1名いて、自らが考えてきた原稿を推敲していました。

昨年度は1名のみの参加でしたが、今年度は前回よりも希望者が増え、英語科としてはたいへん喜ばしいことです。

■平成29年10月18日（水） 1年生メンバー3名、2年生メンバー2名参加。

中間考査も終了し、久しぶりのハセック活動となりました。今日は、ミーティングを行いました。目的は、来週に実施するハロウィーン特別企画「オープンハセック」の話し合いです。メンバー数名がマリ先生と相談しながら活動内容を検討。簡単な役割分担もおこないました。

今年度の後半もスタートし、秋も深まってきました。ハロウィーンに、スピーチコンテストに、レシテーションコンテストと、行事が続きます。

■平成29年10月25日（水） 1年生メンバー3名、2年生メンバー2名参加。

ハロウィーン特別ハセックでした。今回はハセックメンバーだけでなく、メンバー以外の人にも歓迎の旨の連絡を、朝のSHRで全校生徒に入れて貰いました。ただ、明日から高体連、高文連多忙なのか、来訪者はハセックの生徒のみとなりました。

まず、マリ先生からカナダのハロウィーンについて状況を説明。もともと、

変装したり“Trick or treat”と呼びかけたりするのはカナダが起源であること、カナダの学校では児童生徒はもとより、この日は先生もユニークなコスチュームに変装して授業をすることなどを話してくださいました。そのあと、テ



(メンバーが作成した校内掲示用ポスター)

イラー・スワフトのナンバーを聴き、ワークシートに沿って学習。前回のミーティングで出されたリクエスト曲です。穴埋め式のワークシートを使って歌詞の背景などを探りながら楽しみました。最後は、スヌーピーのハロウィーン用DVDを観賞し、持ち寄ったお菓子を交換しました。

日本でも最近はハロウィーン色が目立つようになってきました。マリ先生も、「この行事がクリスマスに続く年間第2の大きな行事として世界に定着するともっと素敵なのに」とコメントをされていました。

■平成29年11月10日（金） 第23回ミシガンカップ高校生英語スピーチコンテスト。会場はミシガン州立大学連合日本センター（彦根市）、1年生メンバー2名参加

恒例のスピーチコンテストの時期となりました。今年度も英語をこよなく愛す、2人のハセックメンバーが参加しました。1年生の西村彩葉さんと、松岡愛香ジャスミンさんです。2人は夏休み頃からスピーチの題材を準備し、論旨や具体例も工夫し、日本語版と英語版にまとめました。

西村さんは、所属する社会福祉部での活動をとおして得られた、障がいをもつ子ども達とのふれあう中での感動や、社会全体が彼らに対して心得ておくべき基本的姿勢を、コミュニケーションとの関わりの中でまとめました。

松岡さんは、父親がブラジル人、母親が日本人という家庭環境で育つことで経験した、様々な価値観、ならびにコミュニケーションの難しさと重要性を、熱いメッセージで伝えました。

二人の感想等を以下に掲載しておきます。

松岡さん：

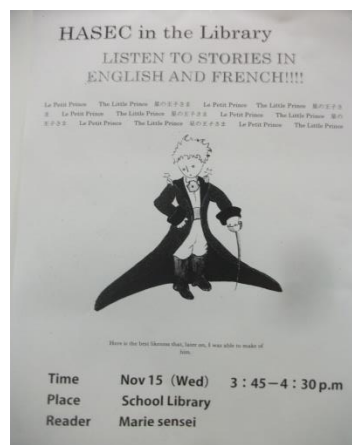
大会では、多くの方々の主張や思いを聞くことができ、どれも心を打たれるものばかりで中には涙する方もいました。このような場に来られたことをとても嬉しく思うとともに、一生の思い出になりました。とても貴重なよい経験でした。もう一度スピーチをするなら、日本や日本を取り巻く社会に対する私の想いを自分の経験をもとに伝えたいと思います。また、これからの日本のグローバル化についても、主張していきたいと思います。

西村さん：

スピーチコンテストの会場は、異国に来たような雰囲気、終始緊張していたけれど、とてもよい経験になりました。また、スピーチでたくさんの方との交流ができたと思います。審査員や他の発表者の方々も、ずっと耳を傾けてくださることがとても嬉しかったです。「何かに挑戦する心」というのは、コミュニケーションに限らず、とても必要で、これからもずっと持ち続けたいと思いました。

■平成29年11月15日(水) 1年生メンバー2名、2年生メンバー2名ハセック以外の生徒4名参加。

この日は本校図書館と連携し、「外国語絵本の読み聞かせ」と題した、誰でも参加できるオープンHASECとして実施しました。内容は、『星の王子様』と『The Giving Tree(大きな木)』です。ALTのマリ先生と司書の山下晶子先生に本を読んでいただき、日本語版との微妙な違いも味わえました。今回で2回目となる、読書週間とタイアップした企画ですが、興味を持った3年生も参加してくれ、楽しいひと時となりました。



本校図書館には洋書のコーナーも設けられていて、これからも、外国文学に対する関心を高めることに繋がっていくものと期待できます。

■平成29年11月19日(日) 1年生メンバー1名、東近江市立中学校英語暗唱弁論交流会に参加。

今年度から、始まった新しい大会。

今まで、外国籍の生徒が出場資格を得ていたスピーチコンテストが開催されなくなり、その受け皿として、何かできないものかと東近江市内の中学校の英語

教員の有志で企画、立案し、開催の運びとなったとのことです。

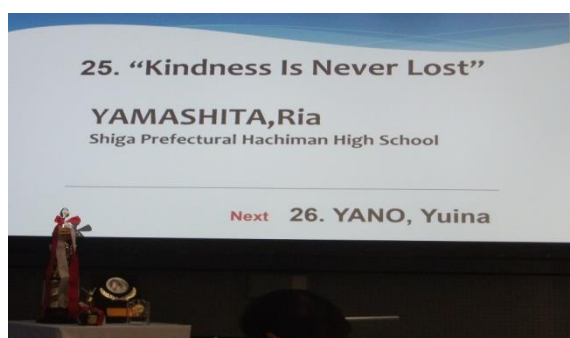
9月頃、本校HASECの方に連絡があり、「是非、中学生と高校生とが一堂に会して英語を学ぶ機会をもてれば・・・」との提案をうけ、メンバーと相談したところ、先日のミシガンカップ高校生英語スピーチコンテストに出場した、松岡愛香ジャスミンさん（1年生）が、是非行ってみたいと手を挙げてくれました。

当日は、中学生のスピーチを聴き、審査員を務めているALTとは別に、松岡さん自身も、感想やコメントを中学生に伝えました。そして、中学校時代におこなったスピーチを再度披露。会場から大拍手を受けていました。

HASECメンバーが学校の外で中学生らと交流を深めるのは、HASEC設立以来初めてのこと。今後も、地域との繋がりを大切にして、英語学習熱を高めていって欲しいものです。

■平成29年11月26日（日） 第33回朝日大学杯高等学校英語弁論大会
会場は朝日大学（岐阜県瑞穂市）、2年生メンバー1名参加。

今年度も、70名余の応募者の中から見事一次審査（原稿審査）を通過し、2年生の山下莉采さんが出場を果たしました。タイトルは、”Kindness is never lost”（情けは人のためならず）。本番でも、自信たっぷり笑顔たっぷりにスピーチをしました。



スピーチ内容は、野菜を届けてくださる近所のお年寄りと、そのお年寄りとき

間を気にせず話し相手になっている母親をベースに描き、「近所の方々とのおたかいコミュニケーションのおかげで、お年寄りが、いかに心豊かに過ごせるか」を主張しました。山下さんは、「一人暮らしのお年寄りは、孤独だとばかり思っていたけれど、周りの人たちが積極的にコミュニケーションを取ることで、改善され、また、コミュニケーションに年齢は関係ないということを訴えたかった」と言っています。

感想等を以下に掲載しておきます。

山下さん：

とても楽しかったです。大勢の前で、自分の意見を述べられて、それを真剣に聴いてもらえて、大きな達成感と自信を得ることが出来ました。他の発表者の方々からも、沢山の刺激を受けました。たいへん流暢に英語を話す発表者をみて、心から尊敬しましたし、今回同じ舞台でスピーチをすることが出来たことを誇りに思いました。もし、またスピーチコンテストに出場できるなら、そのテーマとして、高校生にとって身近な存在であり、社会的に議論されているSNSについて、実際に深く関わりがあるからこそ言えるようなことを発表したいと思います。